

# 2005 年度 経済原論 : 期末試験

2005 年 7 月 19 日 (火) 実施

## < 解答・採点基準 >

### [第1問]

正の相関関係、「相関関係」は3点、「比例関係」は2点

(2つの可能性があるが、いずれでも可。ただし2つ併記してあるものは減点。)

A: 出生率が高く、子どもの数が多いほど、必要な保育園数が多くなる。

B: 保育園の数が多いほど、子どもを育てやすいため、出生率が高くなる。

上記でA(B)を書いた場合、逆の因果関係としてB(A)のような可能性も指摘できる。

したがって、この図だけから、因果関係としてA(B)が正しいとは断定できない。

上記以外でも部分点: 「他の要因を考える必要」「出産年齢にある女性人口割合も重要」等

### [第2問]

需要曲線と供給曲線を連立させて、価格と取引量について解く。均衡では  $x=y$  である点に注意。

価格:  $\frac{ad+bc}{b+d}$  や  $a-b\frac{a-c}{b+d}$  など、取引量:  $\frac{a-c}{b+d}$

$t \times 100\%$  の消費税が導入されると、消費者の直面する価格は生産者価格の  $1+t$  倍となる(ex. 10% の消費税が導入されると 1.1 倍になる)。故に、消費者価格は  $p = (1+t)(c+dy)$  と表せる。

価格:  $(1+t)\frac{ad+bc}{b+d+dt}$ 、 $a-b\frac{a-c-ct}{b+d+dt}$ 、 $a-b\frac{a-c(1+t)}{b+d(1+t)}$  など

取引量:  $\frac{a-c-ct}{b+d+dt}$  や  $\frac{a-(1+t)c}{b+(1+t)d}$  など

上記の答えから、生産者価格は  $\frac{ad+bc}{b+d+dt}$  である。消費者負担は「消費者価格 - 元の価格」、生産者負担は「元の価格 - 生産者価格」として計算できる。

消費者負担:  $(1+t)\frac{ad+bc}{b+d+dt} - \frac{ad+bc}{b+d}$  や  $\frac{(ad+bc)bt}{(b+d)(b+d+dt)}$  など

生産者負担:  $\frac{ad+bc}{b+d} - \frac{ad+bc}{b+d+dt}$  や  $\frac{(ad+bc)dt}{(b+d)(b+d+dt)}$  など

### [第3問]

希少性: さまざまな資源は有限であること。

機会集合: 資源が有限な下で、意思決定において選択可能な選択肢の組み合わせのこと。

時間制約: 意思決定を行う際に直面する時間の希少性によって生じる制約のこと。

トレードオフ: 希少性がある場合、ある選択肢を選ぶと、他の選択肢を諦める必要がること。

合理的な消費者: 意思決定を行う際に自らの損得勘定によって選択肢を決めるような消費者。

### [第4問]

既雇用者の最低賃金上昇、失業の発生などに言及があること。

ホームレスの発生に言及していること。

需要曲線: 水 > ダイヤモンド (3点) 供給曲線: 水 < ダイヤモンド (3点)

交点の比較 (4点) (弾力性に関する記述のみの場合には5点)